

平成30年度 第293回教育研究審議会議事要録

日時 平成30年6月12日(火) 13:30~14:50
場所 北方キャンパス本館 E701 会議室
出席者 松尾学長、柳井副学長、梶原副学長、二宮副学長、中尾副学長、田上事務局長、大平外国語学部長、朱経済学部長、田部井文学部長、小野法学部長、眞鍋地域創生学群長、龍国際環境工学部長、日高基盤教育センター長、八百社会システム研究科長、任マネジメント研究科長、今泉学生部長、田村教務部長、後藤入試広報センター長、佐藤情報総合センター長、廣渡評価室副室長

配布資料

- 1 再任審査報告書
- 2-1 平成29年度計画に係る自己点検・評価報告書(案)について
- 2-2 平成29年度計画に係る自己点検・評価報告書(案)
- 3-1 i-Designコミュニティカレッジ構想案
- 3-2 北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ規程(案)
- 3-3 社会人大学教育運営委員会規程(案)
- 4 平成30年度入試広報計画
- 5 北九州市立大学教員海外出張・研修報告書

第1号 教員の再任について

* 資料1のとおり、平成30年12月31日付で任期満了となる任期制教員のうち、再任申請のあった国際環境工学部教員1名について、再任審査委員会から再任審査結果の報告がなされ、同報告に基づき再任について提案。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第2号 平成29年度計画に係る自己点検・評価について

* 資料2のとおり、平成29年度計画に係る自己点検・評価について提案。

- 評価室で審議、内容確認を依頼した「平成29年度計画に係る自己点検・評価報告書(案)」について提案するもの。教育研究審議会承認後、6月28日に開催する経営審議会・役員会で審議いただき、北九州市地方独立行政法人評価委員会に「業務の実績に関する報告書」として提出する。
- FD研修の出席率は低い状況であるが、研修動画の視聴は多い。一昨年度に行ったAP関係の必修研修については、DVD研修受講者も参加者としてカウントしていた。今後FD委員会等において、参加者の定義や必修・選択研修の別、参加者数の算定方法、FD研修に参加しやすい仕組み等について検討することになっている。
- 派遣留学の拡大については、IV評価となっているが、中期計画の目標である「海外での学修体験者数を平成27年度実績に対し平成34年度までに1.5倍以上に増加させる」には、まだ努力が必要である。交換留学は枠の一時停止があった。派遣留学は、大学によって百数十万から6百万円程度費用がかかるため、新規校を開拓すれば派遣者数が増えるというものでもない。今後語学研修や短期留学等、学生を巻き込む仕掛け作りが必要であることを各部局でも周知いただきたい。
- 新英米学科の開設により、留学者数は増加していくと思われるが、それだけでは目標に到達しないと認識している。努力、てこ入れが必要である。

【議長】提案について、承認してよろしいか。

【委員全員】(異議なし)

第3号 新社会人教育の創設に係る中間報告について

* 資料3のとおり、新社会人教育の創設に係る中間報告について提案。

- 第3期中期計画において、平成31年度に開設するとしている新社会人教育に関する中間報告を行うもの。本審議会でご意見をいただき、6月26日の教育研究審議会で最終報告を行いたいと考えている。
- 北九州市立大学i-Designコミュニティカレッジ規程案では、塾長はカレッジの運営をつかさどるとなっているが、運営組織である社会人大学教育運営委員会の委員にはなっていない。修了証や履修証明書も学長名となっている。塾長にはもう少し役割があってもいいと思うが、どのような位置付けなのか。
- カレッジが、確固とした組織であると見せるためには、代表者を別に置いた方がいいと考えた。塾長は、公式の行事に出席するなど、受講生に対してカレッジを代表する。塾長の役割についてはもう少し整理する。
- アクティブシニアを対象としているが、過去には、パソコンを全く使えず、退学した人もいる。そうした方の対応は大丈夫か。
- 入学前にパソコンスキルについて確認し、受講の可否を検討したい。また、「学問のススメ」の中で、パソコン使用について簡単な説明の機会を設けようと考えている。現時点では、パソコンスクールのようなことは考えていない。
- 「自分の将来をデザインするための学び」とあるが、アクティブシニアを対象とする領域が多い中で、「将来」という文言は適切か。
- 「人生」「未来」等、適切な文言に変更したい。
- 「i-Design」の「i」はどのような意味か。また、「i-Designコミュニティカレッジ」は組織なのか、それとも教育プログラムなのか。
- 「i」については、「私」という意味を想定しているが、受け手の取り方でよいと思う。また、i-Designコミュニティカレッジは教育プログラムである。運営組織としては、社会人大学教育運営委員会を設置することにしていく。
- カレッジの規程第5条に「カレッジ受講生は、学則第52条に定めるコミュニティ・コース受講生とする」とあるが、学則にカレッジ受講生を定めなかったのはなぜか。また、受講生の身分はどのように整理しているのか。
- 学則にカレッジ受講生を定めると、授業料等に関する規則を改正することになり、時間を要するため、趣旨や内容が同じコミュニティ・コース受講生制度を活用することとした。また、受講生の扱いについて、学内のサービスをどこまで利用可能にするか、情報総合センター等担当部局と検討していく。
- 新社会人教育の「こころの科学」の領域を専任教員が担当するため、正規学生が多く受講する基盤教育科目「現代人のこころ」を専任教員から非常勤講師に変更すると聞いている。新社会人教育に協力したいが納得できない部分もある。今後、カレッジの見直しは予定されているのか。また、「現代人のこころ」について、担当教員が変わることを各部局で周知していただきたい。
- 見直しは随時行う。領域が増えることを踏まえ、1年後に見直す必要があると考えている。
- 科目等履修生と同程度の教育サービスを受けるとなると、学修支援等様々な支援を行う必要が生じる。安全に通学できる心身状態であるかの確認や、大学としてできることできないことを広報の段階から伝える必要がある。視覚、精神等種々の障害のある学生が受講する可能性もあるし、トイレ、エレベータ等施設改修や夜間対応等、不測の事態に備えた対応も必要になると考えられるため、様々な部局との協力、連携が必要ではないか。
- 現在も高齢の学生はいるが、今後より多くの高齢者が通うことも想定される。現在の学生支援体制で対応可能か、検討する。
- 課題に大学院科目の受講基準をあげているが、先日の社会システム研究科運営委員会において、他の科目等履修生との不公平がないことを条件に承認した。それ以外にまだ課題があるのか。
- ここに課題としてあげているのは、受講基準を受講生に周知するということである。

- 今回の意見は6月19日に開催する新社会人教育開設準備委員会で整理し、6月26日の教育研究審議会において審議いただきたいと考えている。しかし、決定後や実際に運用を開始した後も様々な課題が生じると考えられるので、引き続き全学的に協力をお願いしたい。

【議長】 今回の意見を踏まえ、次回の教育研究審議会最終報告案を提出することとし、中間報告としては、承認してよろしいか。

【委員全員】 (異議なし)

報告

- ① 平成30年度入試広報計画について、資料4のとおり報告があった。
- ② 教員の海外出張について、資料5のとおり報告があった。
- ③ 次回の審議会を平成30年6月26日(火)に開催する予定である旨、報告があった。